

# 基本財務諸表プロジェクト—プロジェクトの状況とプロセスの総括

IASB テクニカル・フェロー ふじわら ゆき  
藤原 由紀

## はじめに

本稿では、筆者が国際会計基準審議会 (IASB) で担当している基本財務諸表プロジェクト (以下「本プロジェクト」という。) に関して、プロジェクトの状況と現在に至るまでのプロセスを総括します。なお、本稿における意見にわたる部分はすべて個人的見解であることをあらかじめお断りします。

## プロジェクトの審議状況

本プロジェクトは、財務諸表及びこれに付随する注記に関する開示の改善を目的としたプロジェクトであり、そのタイムラインは以下の表1のようになっています。

表1—プロジェクト・タイムライン

タイミング	内容
2015年6月	検討開始
2016年12月	プロジェクト範囲の暫定決定
2018年9月	リサーチ・プログラムから基準設定プロジェクトへの移行
2019年12月 (予定)	公開草案の公表
2020年6月 (予定)	公開草案のコメント提出期限
2020年後半	コメントに基づいた再審議
2021年以降 (未定)	最終基準の公表

2015年6月以降公開草案の公表までに、合計で26回のIASB会議及び3回のIASB・米国財務会計基準審議会 (FASB) 合同会議で本プロジェクトの内容が審議されました。表2では主要なトピックごとの提案事項の検討期間 (最初に関連する提案がボードで審議されてから、公開草案として公表する暫定決定にいたるまでの期間) を記載しました。もちろんすべてのトピックについて、記載されている期間中毎回当該トピックを議論していたというわけではありませんが、特定のトピックはかなりの長期間にわたり検討が行われてきたことがわかりいただけるかと思えます。

表2—トピックごとの検討経緯

トピック	タイミング
プロジェクト範囲	2015年6月～2016年12月
移行措置	2019年6月
営業利益	2016年12月～2018年10月
不可分な関連会社及び共同支配企業に係る持分法投資損益	2017年6月～2018年9月
投資カテゴリー及び財務カテゴリー	2017年3月～2019年6月
金融機関のPL表示	2018年6月～2019年4月
外貨換算損益・デリバティブ損益	2019年6月
その他包括利益	2016年12月～2017年11月
経営者業績指標	2017年3月～2019年6月
EBIT/EBITDA	2018年11月～2018年12月
調整後1株あたり利益	2017年6月～2018年5月
キャッシュフロー計算書	2016年12月～2019年4月
財務諸表項目の分解表示の原則	2016年12月～2019年2月
性質別表示・機能別表示	2017年9月～2018年5月
通例でない項目	2018年9月～2019年3月
独立掲記項目	2018年11月～2019年3月
設例	2016年12月～2019年9月

## 利害関係者との意見交換

基準等の設定過程で世界中の利害関係者の意見を聞くことは、IASBにとって非常に重要なことです。本プロジェクトの検討過程でも多くの意見交換の機会が持たれ、特に財務諸表利用

者からの強い要望を受けて行われているプロジェクトであることから、IASBの他のプロジェクトに比較してより多くの財務諸表利用者との意見交換の機会が設定されました。表3はIASBの諮問機関等との公開会議のうち、本プロジェクトが議論されたものの概要です。

表3—本プロジェクトが議論された諮問機関等の公開会議

機関名	タイミング
会計基準アドバイザー・フォーラム (ASAF) [会計基準設定主体]	2016年7月～2019年7月 (計9回)
資本市場諮問委員会 (CMAC) [財務諸表利用者]	2016年2月～2018年11月 (計6回)
世界作成者フォーラム (GPF) [財務諸表作成者]	2018年3月、2018年11月 (計2回)
CMAC・GPF合同会議 [財務諸表利用者・財務諸表作成者]	2016年6月～2019年6月 (計4回)
世界会計基準設定主体 (WSS) [会計基準設定主体]	2016年9月～2019年10月 (計3回)
IFRS諮問会議 (IFRS-AC)	2016年11月、2018年9月 (計2回)
IFRSタクソノミ諮問グループ	2016年10月～2019年6月 (計3回)

さらに、2016年2月から2019年6月にかけて、広範なアウトリーチ活動（利害関係者の意見を聞くための活動）が行われ、117回の各種ミーティング・セミナー等が開催されました。なお、このうち53回は財務諸表利用者との意見交換、残りの64回は財務諸表作成者、学識経験者、各地域の会計基準設定主体等の他の利害関係者との意見交換であり、幅広いトピックについて議論が行われました。

## 公開草案の公表予定

現在 IASB 内では 2019 年 12 月の公開草案公表に向け、公開草案文案等の最終化の作業が急ピッチで進んでいます。通常 IASB では休日出勤や遅い時間の残業等は少なく、また 8 月は夏休み期間のため通常月よりのんびりとした雰囲気なのですが、本プロジェクトチームのスタッフは夏からずっと、タイトなスケジュールでの公表に向け作業にいそしんでいます。公開草案の公表時には、以下の文書がパッケージとして公表される予定です。

表 4—公開草案パッケージ（予定）

文書名
意見募集（質問項目を含む）
公開草案（基準本文）
他の基準の修正
設例
結論の根拠（影響評価を含む）

本稿執筆時点では、ちょうどボードメンバーが投票を行う Ballot draft（原則として以後重要な変更は行われない最終前のドラフト）が IASB 内で回付されているところですが、上記の文書の合計は 200 ページを超える大きなパッケージになるのではないかと思います。また、パッケージの一部または追加的な資料として、プロジェクト・サマリー、現在の IAS 第 1 号

「財務諸表の表示」との新旧対照表、主要な提案を解説するウェブキャスト等の公表が予定されています。

## 公開草案公表後の流れ

IASB の規定上、意見募集期間は最低で 120 日ですが、本プロジェクトでは提案の重要性、想定される影響、文書の量、及び、ディスカッション・ペーパーを公表しなかったために初めて公表される意見募集文書であること等を勘案して、180 日の意見募集期間が設定されています。

結果としてどの程度のコメントが寄せられるかによりますが、2020 年 6 月（予定）の意見募集締め切り後、数か月でスタッフがコメント・サマリーをボード会議に提出し、その後どのようなスケジュールで再審議を進めていくかを議論することになります。

## 終わりに

2018 年の途中から関与してきた本プロジェクトも、いよいよ大きな節目を迎えようとしています。予定どおり今年の 12 月には日本の方々にも公開草案をお届けできるよう最大限努力していますので、引き続きよろしく願いいたします。